

私たち市民が変わろう。
そうすれば議会も行政も変わる。

君津市、来年度から赤字決算。

このままでは27年度から赤字決算(単年度)になります。

右のグラフの赤い棒は君津市の積立金残高。

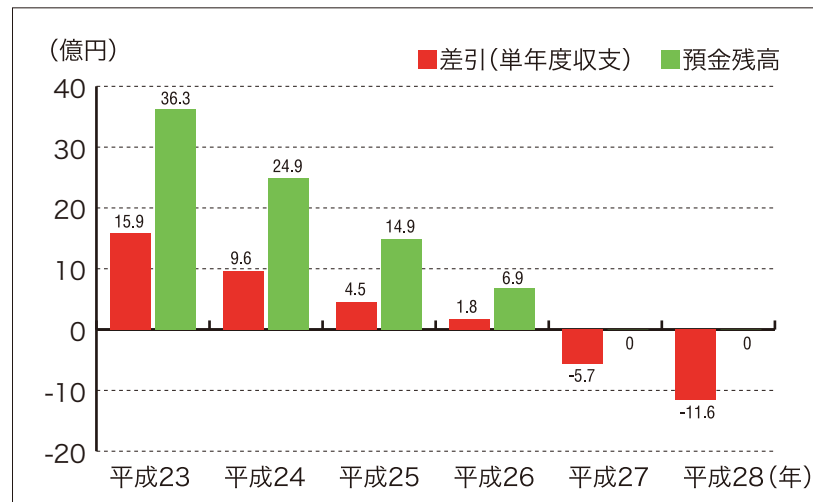
青い棒は君津市全体の収入から支出を引いた、差引額になります。

いよいよ積立金は無くなり、このままいけば平成27年度からは単年度決算が赤字となる見込みです。

無駄遣いをしない財政運営を徹底しなければなりません。

人気取りの施策ではなく、未来への投資(教育・インフラ整備)と本当に必要としている人たちへの手助け(医療・福祉)に使うべきです。

■君津市、積立金残高と単年度収支の推移



作ったけど一度も使っていない

久留里駅西口ロータリー



平成23年に総事業費約6500万円かけて完成しましたが、いまだに使っていません。JRとの東西連絡通路についての交渉が進んでいないという事ですが、ではなぜ作ってしまったのでしょうか。

JRと連絡通路の確約をしてから建設するのが常識だと思うのですが・・・?

使わなくても草刈りなどの維持費はかかります。

ハコモノ維持費に320億円

君津市内の公共施設 567 棟について調べた結果、平成 25 年度から今後 10 年間で、大規模改修や建て替えに 320 億円もの巨額な経費が必要な事がわかりました。

この巨額な経費をどうやって確保するのか?

今までの無計画な施策のつけが、教育費や福祉関係費の削減といった形で表れてきています。

平成25年第4回定例会より

財政非常事態宣言しないの?

須永: 財政を抜本的に見直すためには、市民の協力が必要であり、そのためには市民への周知と理解が欠かせません。

財政非常事態宣言等を発表して、市民の理解と協力を求めていくのが筋ではないでしょうか?

部長: 平成24年に策定した中期財政見通しでは、このままの状態を続けると平成28年度までの5年間で約34億5000万円の財源不足を生じ、平成27年度には約5億7000万円の赤字決算の恐れがある。

財政非常事態宣言については、まだ改革すべき事があり、その改革に取り組んでいく過程の中で、必要な場合には適切に判断していきたい。

須永: 改革を進めるうえで非常事態宣言という旗を振った方がトップとしてもやりやすいかと思いますが、市長どうでしょうか?

鈴木市長: 今財政が逼迫していると言えば逼迫している。考え方、とらえ方一つだ。

数字的に私は、まだ財政危機の宣言をする必要もなし、まだまだ余裕はある。君津市が企業の城下町であるという特異性もあると考えている。何も赤字になっているわけじゃないので、これからも一生懸命やって行く。

須永: 赤字になっているわけじゃないと言いますが、27年度には赤字になると財政部長が言っています。また、城下町という話があったが、いずれ景気が良くなって鉄鋼企業からの税収が増えてくるとお考えなら、それは非常に無責任だと思います。

三重県のシャープ亀山工場や、茂原市のパナソニックなど、企業は1000億円の投資をしようが、自治体から100億円近い補助金をもらっていようが撤退するときは撤退する。

そういう意味で常に君津市も危機感を持っていなければいけないと思う。